

公益社団法人 私立大学情報教育協会
令和6年度(2024年度)第2回短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会と
コンソーシアム参加校との打ち合わせ議事録

- I. 日時 令和6年7月24日(水)18:00~20:00
場所 Zoom 会議室
- II. 出席者 向殿委員長、三田委員、後藤委員、大重委員、治京委員、及川委員、
衛藤先生(別府大学短期大学部)、岩田先生(中村学園大学短期大学部)、
深町先生および八代先生(和泉短期大学)、土井先生(大阪学院大学短期大学部)
(事務局 井端事務局長、中村)

III. 検討事項

1. 地域貢献支援事業の取組み状況と今後の事業スケジュールについて

高齢者支援事業、地域価値発見支援事業の取組み状況と今後の計画について、それぞれ以下の報告及び確認が行われ、取組みの結果報告を翌年1月までに短期大学コンソーシアムプラットフォームに掲載することを申し合わせた。

① 高齢者支援事業

「カルタプロジェクト」を3つの教育機関と2つの異世代者グループの協力(実践女子大学国際学部、実践女子大学生生活科学部、山野美容芸術短期大学、Baba Lab、地域デビュー楽しみ隊)により10月までに読み札と絵札を上記5グループで分担し完成を目指す。なお、11月頃学園祭後にカルタ大会の実施を考えているが難しい。

これまでの達成状況としては、山野美容芸術短期大学での学生募集を行い30名近く参加が確定した。後期にZOOMで実施する。また、実践女子大学国際学部とBaba Lab、地域デビュー楽しみ隊の読み札が完成するとともに、実践女子大学国際学部の絵札分担が完成した。なお、英語版の読み札は、生成AIを使用することになっている。

将来の展望としては、高齢者の認知症予防に活用する方法の検討を予定している。

② 地域価値発見支援事業

「生成AIを使っでの地域食文化に特化した防災食活用レシピ開発」を共通のテーマとし、別府大学短期大学部、中村学園大学短期大学部、甲子園短期大学、大阪学院大学短期大学部、和泉短期大学において、それぞれで以下の通り進めることにしている。

②-1 別府大学短期大学部を中心とした取組み

「生成AIを使っでの郷土食に特化した防災食活用レシピ開発」

ゼミ学生6名(2年生4名、1年生2名)でこれまでにChatGPTを活用した防災食活用レシピの開発を3つ実施した。生成AIを活用することで、学生が0からレシピ開発を行よりも時間をかけずに新しいレシピを作成することが可能となった。材料などで調達が難しいものを出力することもあるため、作られたレシピをそのまま作成することは難しい場合もあった。今まで思いつくことのなかった全く新しい発想のレシピを作ることもあるため、発想の幅が広がった。

これからの計画では、9月以降も引き続きChatGPTを活用したレシピ開発を継続し、年内に10品ほどの実用的な防災食活用レシピを完成させる。完成したレシピはSNS、メタバースを活用して発表する。

②-2 中村学園大学短期大学部を中心とした取組み

「生成AIを使った非常食ストック食材活用レシピの開発」

ゼミ学生18名(2年生)で、非常食としてストック可能(経産省推奨食品)の調査を行い、AI(ChatGPT)に非常食を使ったレシピを開発して学生が調理し、レシピ集を作成して配布する。達成目標としては、レシピをより多くの人に広報して、災害に備え、SDGs 11(住み続けられる街づくり)と12(作る責任、使う責任)に貢献することを目指している。調理した15程度のレシピの内、幾つかを地域価値発見につながるよう郷土食を入れることを考えており、レシピ集として紙媒体とデータで作成し、学内(4千人)、地域(区役所や公民館)、保育園等へ、ローリングストックの導入、フードロスの削減などを呼びかけることにしている。また、SNSを通して、若者(大学生)にも紹介することになっている。

②-3 大阪学院大学短期大学部を中心とした取組み

「生成AIを使っでの地域食文化に特化した防災食活用レシピ~AIと考える私達

のシン・防災食（京阪神 VER.）」

ゼミ生ではなく、授業(実務演習履修生)の中で、前期 12 名、後期 15 名前後で京阪神にマッチングした防災食のレシピを開発することになっている。分野が異なることから、AI との対話により防災食、郷土食、避難所の抱える問題を整理した。AI に尋ねてもおしきせの回答しか出てこないの、自分達目線で五感を意識し、与えられる食ではなく、自らが作り出す食の工夫を構築する食文化の空間づくりを考えている。但し、実際に調理ができないので、調理は甲子園短期大学に協力を予定している。前期(秘書実務演習)では、食文化空間として食事をとる空間は別に設ける提案、熱源の心配がいらぬソーラー炊飯器備蓄の提案、Co Co 壺との企業コラボでご当地カレーの開発を行う。後期(ビジネス実務演習)では、食べるラー油の商品の開発に焦点を当て、出汁+調味料+食材を組み合わせた食べるご当地エキスの開発を AI 活用して大阪編、京都編、神戸編行うことにしている。10 月から年内を目途に進め、1 月にまとめる計画にしている。

②-3 和泉短期大学の取組み

諸般の都合により他大学と同じペースで進めることができないが、先行する体験を生成 AI を後から使って体験を再構成、進化する取り組みを考えている。一つは、別の枠組みで動いている地域連携プロジェクト(卵街道と連携：磁場の卵を使って何かする)のアナログ経験値を AI で再構成し、転換する。二つは、夏休みの時期に震災を体験した福島県南相馬市スタディーツアーの体験により、プロンプトに厚みが増すのではないかと考えている。

なお、事務局からの確認の中で、和泉短期大学としての地域価値発見の取組みが難しい場合には、他のコンソーシアムで展開している取組みについて Zoom で意見交流することも考えていただくことにした。

2. 私情協事業運営組織の検討状況について

事務局から、5 月の総会で会員が大幅に減少したことから、協会組織の運営について理事会で検討した結果、公益社団法人として掲げた当初の目的以上に役割を果たしてきたことから 11 月の総会で事業終結を議決する段階にあることが報告された。また、委員会担当理事の向殿会長からも非常に有益な事業であることから、協会が解散したとしても継続されることが切望された。

そのような中で、事業活動の報告を短期大学コンソーシアムプラットフォームに掲載し、完成することを確認し、2023 年度の高齢者支援事業の活動成果を至急掲載することと、2024 年度の活動成果を 1 月の委員会で確認し、掲載することにした。

3. その他（今後の委員会日程）

今回は、令和 7 年 1 月に開催することとし、その後あらためて都合を伺った結果、1 月 22 日(水)午後 6 時に開催し、今年度の高齢者支援事業と地域価値発見支援事業の取組み結果等について確認することにした。